

■ 提案者（改善者）名（3グループ合同名）

所属	所属名	こども病院	グループ名	デジタルトランスフォーメーズ
	セクション名	各科、ITシステム管理室、外来、医事係、循環器センター	人数	27名
	件名	こども病院オンライン診療（セカンドオピニオン含む）の導入		
	サブタイトル	コロナに負けない診療体制をつくろう		

1. 提案者（改善者）名

所属	所属名	こども病院	グループ名	クリニックズ
	セクション名	各科、ITシステム管理室、外来、医事係	人数	26名

1. 提案（改善）内容

提案（改善）の件名	<p>【タイトル：表題】 オンライン診療の導入！</p> <p>【サブタイトル：副題】 コロナに負けない診療体制をつくろう</p>
概要	<p>新型コロナウイルスの流行により受診に不安を感じる患者が増える中、オンライン診療を開始することで、定期受診患者や遠方の患者が、来院せずに診療や処方、セカンドオピニオンを受けることが可能となった。</p>
現状と課題 （改善前）	<p>オンライン診療は、診療所では広まりつつあるものの、総合病院クラスではまだ実施医療機関は少ない。 今年度当初は、新型コロナウイルスの拡大によって患者数の減少が顕著となり、多様な受診体制が求められることとなった。 コロナ禍においては、定期受診患者等に対して臨時的に電話診療が認められるようになったが、電話診療では顔が見えないため対面診療に比べて情報量に差があったり、保護者対医師のやりとりで終わってしまい、患者本人と接することができない等の問題があった。</p>
改善策（改善後）	<p>CLINICS アプリを導入し、パソコンやスマートフォンを用いたオンライン診療・オンラインセカンドオピニオンが可能となった。 新たに、院内における受診環境の整備を行い、正確な診療報酬算定に向けて、患者ごとに「確認票」を作成し、医師補助・会計職員・診察医師が関わることで算定や予約管理の漏れを防ぐ体制を作った。</p>
改善の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での来院の不安解消につながった。 ・診察以外にもWOCや看護相談等でもアプリを利用することで、患者サービスの向上に貢献した。 ・自宅にいながら受診が可能となることで患者の負担軽減につながり、セカンドオピニオンについても、遠方の患者がより気軽に受けられるようになった。 ・画面越しに診察ができることで、顔色や傷等の確認ができ、電話診療よりも診察の幅が広がった。 ・コロナ終息後も引き続きオンライン診療を行える体制を整えた。

2. 提案者（改善者）名

所属	所属名	循環器センター	グループ名	あなたの町の電気屋さん1号
	セクション名	-	人数	2名

2. 提案（改善）内容

提案（改善）の件名	【タイトル：表題】 オンラインセカンドオピニオンの推進
	【サブタイトル：副題】 コロナ禍における医療の新しいあり方へ
概要	コロナ禍において、対面によるセカンドオピニオンが不可能になる中、オンラインでの実施を行うことで感染リスクを増やすことなく、患者さん・親御さんへの情報提供を行うことができた。また適正な料金設定への改定も行い、正当なコスト回収にもつながった。
現状と課題（改善前）	新型コロナウイルス感染症拡大のため、緊急事態宣言による県外移動制限が行われ、対面でのセカンドオピニオンが不可能となった。もともと循環器センターのセカンドオピニオンは循環器センターのカンファを経て循環器内科・心臓血管外科の2名で行っており、コスト回収もできていなかった。
改善策（改善後）	インターネット環境・ZOOM アカウントの整備を行った。患者さんの受け入れは良好で、十分なコミュニケーションがとれた。またオンラインでできることが周知されるとオンラインセカンドオピニオンの希望が増えた。2019年は34件であったセカンドオピニオン件数が、2020年12月10日現在42件と増加しており、そのうち20件はオンラインであった。そしてセカンドオピニオン料金も改定され収入増にもつながった。
改善の効果	感染リスクを増加させることなく、セカンドオピニオンという社会的責任を果たすことができた。患者さん・家族の満足度は上がり、また結果的には患者さんの紹介につながっている。セカンドオピニオンの料金改定にもつながり適切なコスト回収にもつながった。

3. 提案者（改善者）名

所属	所属名	こども病院	グループ名	WEB 会議推進チーム
	セクション名	IT システム管理室	人数	4 名

3. 提案（改善）内容

提案（改善）の件名	【タイトル：表題】 WEB 会議 100 回開催！
	【サブタイトル：副題】 新しいスタイルの会議形式
概要	新型コロナウイルスの影響により、対面での会議等が中止となる ことが多くなった。それに代わるシステムとして、WEB 会議が注 目され、多くの会議等で使われるようになった。
現状と課題 （改善前）	最初は、開催方法や使い方など皆が分からないシステムであった。 また、各自が管理して自由に開催しようとする、使用数がアカ ウント数を超えてしまう可能性があった。さらに、WEB 会議を行 える会議室が年度当初、映像情報室と心理集団室のみであった。
改善策（改善後）	システムの利用方法については、IT 室職員が利用者に対して分か りやすく丁寧に教えた。その結果、現在では自ら操作することが できる職員が大幅に増えた。 また、管理面についても IT 室で一元管理を行ない、同時開催の場 合には機構所有のアカウントと病院所有のアカウントを使い分け ている。 WEB 会議を行うことができる会議室についても、必要性を訴えた 結果、L 棟各会議室（大会議室、中会議室、教室、特別会議室） でも実施できるようになり、更に使いやすい環境となった。
改善の効果	出張費用の削減